

第1学年 道徳指導案

平成19年10月24日(水)1校時
男子16名 女子19名 計35名
指導者 池川 誠

- 1 主題名 人間の弱さの克服,人間の気高さ
(資料名:『つかの間の出来事』 学研「かけがえのないきみだから」)

2 主題設定の理由

(1) 主題観

人間は、誰しも「すばらしい生き方をしたい」、「他の人よりよりよく生きたい」と考えている。また、著名人の生き方を知ったり、多くの人と接したりする中で「あの人のようになってみたい」とか「できる人になろう」などという考えを持つものである。しかし、そのような考えとは逆に、いろいろな場面で様々な誘惑に負け、易きに流れ自分勝手な言動をとってしまうことがある。そして、良心によって悩み、苦しみ、良心の呵責に耐えきれない自分の存在に気づいたり、自分に自信がもてなくなったりするものである。さらにその自信のなさが劣等感やねたみにまでもつながる場合もある。

完璧な人間などいない。人間は内に弱さや醜さをもっている。そのようなありのままの人間の姿を踏まえた上で、悩みながらもそれを乗り越えることのできる強さや気高さを自分も持っていることに気づいたとき、内なる自分に恥じない誇りある生き方が大切であることを強く感じる。また、それらが周囲のみんなにもあると理解し、誰に対してもその人間としてのよさを見だし、他の人の考え方や行動に共感したり、自分自身を見つめ直したりして、自分の目指す生き方を探るとともに自分を奮い立たせることで人間として誇りある生き方に近づいていけるということに気づかせていきたい。

(2) 資料観

本資料『つかの間の出来事』は、生徒の作文である。本屋において誤って本の表紙を破ってしまった「わたし」悪いことをしてしまったという気持ちとは裏腹に誰も見ていないのだから知らないふりをして帰るのがいいというずるい気持ちがわいてくる。母の声にせかされるように結局そのままその店を立ち去ってしまう。その後再び「わたし」が店に戻り、店の人に謝るまでの苦悩と自分の心の弱さを乗り越えたときの清々しさを詳細に描いている。生徒作文であることと自分にも起こり得る出来事であることから生徒自身が自分を重ね合わせて読むことができる。その気持ちを考えた上で、自分を振り返り、誰にでもずるい心があることに気づかせたい。ただ、それだけに終わらず「わたし」のように1度弱い心に負けてしまっても最終的には、その弱い心に打ち克つことがすばらしいということに気づかせていきたい。そして、自分の生き方がどうあるべきかということを考えさせていきたい。

3 指導要領との関連

3-(3) 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること

人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。

4 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく素直な生徒が多い。誰かが失敗をしたとしても攻めることなく、すぐにやさしい言葉をかけ、手助けができる子どもたちである。しかし、自分の行為を見つめず、人の悪いところばかりを注意するところも見られる。また、悪いことだと思っていなくても怒られたくないという意識からか自分の悪い行為は黙っておこうとするところも見られる。さらには、よい行為ができた生徒を見て「はすごい」という声がある中、「だからだよ」と投げやりな言葉が聞こえることもある。本主題を通す中で、誰だって本当はしたくない、先生にばれなければいいなどといった弱い心があることを理解させるとともに多くの人がある弱さに打ち克っていることに気づかせたい。また、自分にとって何が大切なのかを考えさせていきたい。そして、自分に打ち克ち、正直に行動できた生徒を温かく認め、拍手を心から贈ることのできる生徒に育てていきたい。

【実態調査】(平成19年10月18日実施 対象人数35人)

あやまらないといけないのにあやまらなかったことはないですか。

ある - 23人 ない - 12人

それは、どんなときですか。(場面)

ケンカをしたとき(7人) 悪いことをしたとき(7人) おこられたとき(2人)

自分の思い通りにいかなかったとき(3人) 物を壊したとき(2人)

自分のことしか考えていなかったとき(1人) 危険をおかしたとき(1人)

自分のせいで他の人に何かがあったとき(1人) 約束をまもらなかったとき(1人)

なぜあやまらなかったのですか。

怒られるのが嫌・怖かったから(4人) 自分が正しいと思ったから(4人)

あやまるタイミングがわからなかった(3人) あやまる気がしなかった(3人)

意地をはってしまって(2人) 気まずかった・あやまりにくかったから(2人)

イライラしていたから(1人) そこまで悪いと思わなかった(1人)

別にいいやと思った(1人) 相手が許してくれないと思ったから(1人)

ばれなかったから(1人) やったことが怖くなった(1人)

そのあとどんな気持ちになりましたか。

後悔・あやまっておけばよかった(8人) 何かモヤモヤしたものが残った(4人)

相手に悪いことをした・申し訳ない(4人) 不安・これでよかったのか(2人)

いやな気持ち(2人) 残念(1人) あやまりたくない(1人)

今、そのことについてどう思いますか。

しっかりとあやまっておけばよかった(13人) 後悔している(2人)

自分のしたことが馬鹿なことだと思う(2人)

あるときあやまっておけばすっきりしたのに(1人) 改善していきたい(1人)

悪いことをしたな(1人) どうなるのか心配(1人) あまり気にしていない(1人)

【考察】

半数以上の生徒があやまらないといけない場面であやまらなかった経験があると答えている。どんな場面かで見えていくとケンカなどの友人関係の中でのトラブルと自分自身が対人関係以外で悪いことをしてしまったときにわかれている。その比率はほぼ同じである。あやまらなかった理由は、怒られることが嫌だ・怖いという意見と自分が正しいという意見が多い。これは、その後の気持ちを見た場合に後悔している生徒が多いことからやったことの事実をその場で見つめることをせず、自分のことばかりを考えて弱い心に負けてしまう生徒が多いということだと思われる。また、ばれなかったからという意見もあり、悪かったという思いよりもばれなければいいという思いが強い生徒もいることも明らかである。

その後の気持ちや今現在考えていることを見ても、自分がやったこと(事実)に対して後悔している生徒も多いが、それ以上にあやまらなかったことに対する後悔が多いことがわかる。

これらからアンケートの結果を活かしながら自分の心の弱さを見つめ、また他の人にも心の弱さがあることを捉えさせたい。さらに、「わたし」の気持ちを考える中でアンケート結果にもあるような自分たちのその後の気持ちなどにもふれ、正直に生きることの大切さについて指導していきたい。

5 指導にあたって

「意識化」の段階では、アンケート結果をもとにあやまらなければならないのにあやまらなかった経験を振り返らせ、すぐにあやまらなかった理由について考えさせる。その上で、心のノートを活用し、人間には誰しも善い心と悪い心があり、善い心よりも悪い心の方が先行してしまうという弱さがあることをつかませていく。そして、本時の学習課題へとつなげていくようにする。

「焦点化」の段階では、本の表紙が破れ、「わたし」が何も言わずに店を出るところまでをテープで流し、まず、本が破れてしまったときの「わたし」の気持ちを捉えやすいように簡単な役割演技を取り入れる。その上で「わたし」の気持ちをワークシートに書かせて、発表させる。次に、「わたし」はこの後どんな行動をとるか推測させる。この際、心の内にあるすぐにあやまろうという善の心とばれていないから黙っておこうという悪の心を捉えさせるようにする。ここで、すぐにあやまるという意見ばかりが出てきたら自分はどうかと問いかけてそうでないことに気づかせる。

「追求・深化」の段階では、資料後半を読み、「わたし」があやまると決めてから実際にあやまるまでの心の

内を考えさせる。実際にあやまろうと決めてもなかなかタイミングがつかめなかったり、気まずさばかりにとらわれたりともここでも弱い心が出てくることをつかませる。そして、その弱い心に負けず自分からあやまりにきた「わたし」のすばらしさに気づかせるようにする。さらに、もし正直にあやまっていなかったら心の内はどうかと考えさせ、その先にあるのは後悔や反省もしくは今後への不安であることを捉えさせる。

「自覚化」の段階では、アンケート結果にもふれながら自分自身を振り返り、「わたし」のように自分にも弱い心があるが、それに負けず正直に生きていくことの大切さに気づかせていきたい。この際、「わたし」は、やはりすぐにあやまることが最善であったことをおさえておくようにする。

「意欲化」の段階では、身近な人や話題になっている人の同様な内容の話聞き、どんな人でも弱い心があることを再認識するとともにそうなった場合後悔が絶えず、ずっと気になってしまうことになることにふれる。そうならないためにも自分を奮い立たせて正直に生きていくことが特に大切であり、そういう生き方をしていることをすすめ、実践化への意欲を高めていけるようにしたい。

6 本時

(1) ねらい

誰でも心の弱さや醜さをもつことを理解するとともに、人間のもつ弱さや醜さを克服して、自分に正直に生きていこうとする態度を身につけさせる。

(2) 事前活動

心のノートを活用し、自分をみつめる時間を取り入れておき、生徒へのアンケートで自分自身を振り返るようにさせる。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の支援・留意点
意識化	1 アンケートと心のノートP. 73をもとに簡単に揺れ動く自分に気づかせる。 2 本時の学習目標を設定する。 自分にはじない生き方とは、どんなものだろう。	8	自分に関するアンケート結果を提示した上で、心のノートP. 73の心の善玉・悪玉についてふれ、誰もがもつ人間の弱さに着目させるようにする。
焦点化	3 資料前半を読み、主人公の気持ちについて考える。 本の表紙が破れたとき、どんなきもちだっただろう。	12	資料は録音したものを使用する。 誰にでも起こり得る状況であることとその時の主人公の気持ちを捉えやすくするために役割演技を取り入れる。(本を取ろうとしたら破けるといった簡単なもの) 心の内にある善の心と悪の心の葛藤を捉えさせる。 実際に「わたし」がどんな行動をとるか考えさせる。
追求・深化	4 資料後半を読み、主人公の気持ちについて考える。 店の中になかなか入っていけなかったのは、なぜだろう。 心の中の黒い雲がなくなったのはなぜだろう。	20	善の心が悪の心に打ち克つたことを捉えさせるとともにその時の心の内を考えさせるようにする。 1度は弱い心に負けてしまったが、自分で考えて謝りにきた「わたし」のすばらしさに気づかせる。 もし、正直に謝っていなかったら心の内はどうかと問いかけてみる。
自覚化	5 自分を振り返り、感想を書く。	7	感想を発表させ、他の人の意見を認めた上で発表者を賞賛するようにさせる。

意欲化	6 教師の説話を聞く。	3	身近な人や話題になっている人の話を聞くことでさらに意欲を高めていけるようにする。
-----	-------------	---	--

(4) 評価

ア 誰でも心の弱さや醜さをもつことを理解し、また、人間にはそれを克服する強さや気高さがあることを理解できたか。

イ 自分に正直に生きていこうとする態度、意欲を身につけられたか。

(5) 事後活動

ア 生徒が感じたことなどを学級通信などで紹介したり、今後の教育相談に活かしたりする。

イ 進路学習の講話の中で同様な内容（仕事の中にはつらさがあるが、それを乗り越えたときの達成感や充実感のすばらしさがあるなど）をしていただくことでさらに意欲を高めるようにする。そして、今後の進路学習への心構えを作っていくようにする。

7 資料分析

主題名 人間の弱さの克服	【ねらい】 誰でも心の弱さや醜さをもつことを理解するとともに、人間のもつ弱さや醜さを克服して、自分に正直に生きていこうとする態度を身につけさせる。
資料名 『つかの間の出来事』	

場面	登場人物の言動及び心情	価値	主な発問
本の表紙を破ってしまった「わたし」	<p>わたし 母 店の人</p> <p>遠くのスーパーで買い物をする『わたし』と『母』</p> <p>「ピリッピリッ」と音が鳴り、なにげなく手に取った本の表紙が破けた。</p> <p>悪魔の手がしのびこんできた「わたし」 (このまま見て見ぬふりをするのがいちばんいい...。知らないふりをして帰るのがいちばんいいと...。)</p> <p>わたしの心は、悪魔のささやきに負けてしまった。 「ありがとうございました」</p> <p>そのことばを聞いたとき、背中にグサツときた。そして、後ろめたいものを感じた。</p>	人間の弱さ	本の表紙が破れたとき、どんな気持ちだっただろう。 「ありがとうございました」を聞いて、どう思っただろう。
「わたし」 帰宅途中で後悔し行動に移す「わたし」	<p>家へ帰る途中、心は重かった。</p> <p>のろのろのわたしの自転車。のろのろのわたしの心。本当にこれでよかったの、わたしの心。 (引き返して行って一言、たった一言謝ってすっきりしたい。)</p> <p>この先ずっと後悔していくのだろうか。嫌だ、わたしはそんな生活を送りたくない。もっと堂々としていたい。</p> <p>「わたし」は、急いで自転車をこいで店に戻った。</p>		

<p>店に戻り、本当のことを正直に話す。「わたし」</p>	<p>店に着いた。だが店の中には、なかなか入って行けなかった。</p> <p>店の人と目が合い、「わたし」はとっさに隠れてしまった。隠れてしまった自分に腹がたった。 (なぜ、なぜ、わたしは隠れてしまったの。これから勇気を出して本当のことを言うわたしがどうして。)</p> <p style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;">さあ勇気を出して、一步前へ出た。</p> <p>「すみません。あの、わたしがここのところをやぶいたんです。」 (ああ、やっと、やっと言えた。)</p> <p>店の人の優しい言葉「ああ、別にたいして破けていないし、弁償しなくてもいいですよ。」</p> <p>(あんなに苦労したのに、言ってしまうはずだなあ。) (よかった、本当に言ってよかった。)</p> <p>「どうも、本当にすみませんでした。」 もう一度言って店を後にした。</p>	<p>人間の弱さ</p> <p>勇気 人間の弱さ の克服</p>	<p>なかなか店の中に入って いけなかったのは、どうし てだろう。</p>
<p>る「わたし」に「母」に本当のことを打ち明け</p>	<p>家に着いた。「わたし」の心の中は、晴れ晴れとした気分だった。</p> <p>「わたし」は、「母」にすべて話した。</p> <p style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;">心の中で全部の雲がその瞬間はしけてなくなった。その代わりにおだやかな心が全体に広がってきた。 (本当のことを言ってよかった。)</p>	<p>人間の弱さ の克服</p>	<p>心の中の雲(モヤモヤ)が なくなったのはどうして だろう。</p> <p>もし、正直にあやまってい なかったらどうだろう。</p>

